

部会・プロジェクト紹介④ ごみ減量プロジェクト

このコーナーでは MELON の活動母体である各部会・プロジェクトの活動を、1つずつピックアップして紹介していきます。

1996 年から毎年秋に開催しているリサイクルフリーマーケット MELON「みんなでおさがり市」は、『おさがり市実行委員会』の手で支えられています。当日参加者に持ち込んでいただく古布（こふ）や古着を集めてその場で販売する「古布の山コーナー」は毎年好評で、年々集まる量は増加傾向にあります。そんな中、『おさがり市実行委員会』から生まれたのがごみ減量プロジェクトです。

私たちはいったいどれくらいごみを出しているのでしょうか？

家庭から出るごみの3分の1は紙ごみです。燃やせばごみですが、分別すれば立派な資源ごみです。ごみ減量プロジェクトは2002年度から活動をスタートし、資源化センターの見学会や紙すき体験などを行い、資源化するの一番大切なのは家庭での分別だということを知ることができました。

では、紙ごみを資源化するため、分別を広げるにはどうしたら良いのでしょうか？



小雨降る中
聞き取り調査
実施中
2004年5月20日(木)

2004年度は、「回収場所があれば紙ごみをもってくるか」という聞き取り調査を行いました。調査の結果、「身近に回収場所があれば持っていく」という回答が多く得られましたが、一方で「紙類回収庫」の存在は知られていないこともわかりました。

プロジェクトでは今後も調査等を行いながら、紙ごみを資源化する普及啓発をすすめていきます。例会は年6回、日専連ビブを会場に開催しています。興味のある方はぜひ気軽に参加してください。

事務局担当 / 松倉

MELON20周年をめざせ！

50人リレートーク

第4回目の執筆者

星智宏さん
(宮城県農協青年連盟
前委員長)

世界経済のグローバル化に対するルールの必要性や環境保全と持続可能な農業へと、今、消費者との交流や小中学生を対象とした農業体験が各地で行われています。食育活動は全国に広がり多くの人々の関心を呼んでいます。その展開は、収穫体験をはじめ栽培ものや、食品加工、調理、と多種多様で、今から2、30年前までは子どもでもあたりまえのように誰もが体験していたことが田舎の子ですら体験学習を通して経験する時代です。

普段何気なしに食べている野菜も実際に栽培してみると意外な面に子どもたちは驚く。栽培のプロセスを知り、土壌微生物の話や関連する昆虫類の話を

する普段見ることのないミクロの世界である、結構マジで聞いてくれる。ひとつの野菜が家庭の食卓に上るまでいるんなドラマがあり、君たちの口に入るんだよと話す全員が納得した顔になる。でも、本当はそれだけでなく子どもたち1人ひとりが大人になってから自分の子に食事を与える時に何の疑いもなく、スーパーのセールで買ってきた輸入野菜や果物を与えてしまう。全ての輸入農産物を否定はしないが、自分たちの口に入る食料についてある程度は知識と認識をもって選ぶ必要があると思います。洗剤を入れてお米を研いだり、包丁の使えないおかあさんが増えている昨今ですので、少しでもアグリ情報が次の世代に確実に伝わるよう体験学習を通して伝えていこうと思います。

..... 次号予告

次は、宝明真理さん。日本農業新聞の営農生活部に所属。